

長崎で平和について考え、 阿蘇で自然の偉大さに触れた修学旅行

大阪府富田林市立明治池中学校 5月30日(日)～6月1日(火)



富田林市立明治池中学校（東野雅巳校長）は、大阪府の東南部に位置する閑静な住宅地にある、全校生徒440名余りの学校である。今年度の修学旅行は、5月30日出発に向けて、本年4月に生徒達による実行委員会を発足。自分達の修学旅行として意識をもち、まずは服装、持ち物など身近に向つてマードを盛り上げ、気になることから検討を始め、着々と回を重ね結束力を高めながら、その目的に向つてマードを盛り上げ、万全の態勢を整えた。

本年度の修学旅行の目的として次の3点が掲げられた。

一、平和について考える。
二、修学旅行を通して互いの理解と信頼を深め、学級・学年の団結力を高める。

三、自然の偉大さや見知らぬ土地の文化に触れ、自己の存在を実感する。

同校では、初めての飛行機利用とあつて生徒たちの関西空港集合には事前指導を徹底し、あらかじめ班別に空港へのルートを決めた。その成果で出発当日は予定通り集合点呼完了。さあ、TAKE OFF。

1時間程で大村湾に浮かぶ長崎空港へ到着後、一日のテーマである「聞き取り学習」のため、長崎県総合福祉センターへ直行した。ここでは原爆の体験談として講話に1時間程耳を傾け、戦争の恐さなどを改めて実感、各自それぞれの思いを深く心にとどめた。その後全体で平和公園へと移動し平和祈念像を前に「慰靈式」をおこない平和を祈念した。

次に班別（男女混合6人ベース）ファーレードワーク

車券を利用して原爆資料館と大浦天主堂とグラバー園を必須科目とし、班独自ランで活動した。きっと2つの顔をもつ長崎を充分感じ取つたことと思う。

この日の宿泊地は長崎市内ではなく、夕暮れのクルージング（20分）を楽しむながらリゾートホテル伊王島へ、ここでは夕食後、レクが計画されていた。音響設備のよいホールで盛り上がり、つぎに敷地内の整った芝生グランドへ移動し、フォーケダンスが始まつたのである。見上げれば「満月」が生徒たちを温かく歓迎していた。

2日目の朝食時、食事会場付近に立っていると、あいさつの「シャワー」を浴びてしまった。

「おはようございます！」朝から一段とすががしい気分となつた。

船から貸切バスに乗り換え、大自然が待つ阿蘇地区へ向つた。阿蘇中岳では天候・風向きも良く火口もくつきりみることができ、しかも外輪山までもすばらしく見通しがよく、充分に世界一のカルデラを感じ取る事が出来た。

本日の宿泊地は偉大な大ラス毎のメニューで生徒達と担任の先生とのまさにコミュニケーションを高める。

すると同校では、3回目のペニシリン泊利用だそうだが、その理由を尋ねると、①家庭的（自分の家感覚）で、しかもホテルの雰囲気を体

以上の3点を挙げられた。
②教育性（生徒と担任の生
生との人間関係をより深め
られる）
③経済性
一方、オーナーには、「成
績8年度から増えておりま
す。年度は15校で、12年度は22
校程度の問い合わせを頂きました。
さらに意欲的に受け入れられ
制の改善に努めていきな
い」と言った。
3日目の朝にも再びバ
の乗降口であいさつのシャ
ワーがあった。
「割りばしリサイク
ル」への取り組み
近畿日本ツーリスト協定培
養館ホテル連盟
教育旅行部会京都地区会
近畿日本ツーリスト協定培
養館ホテル連盟（略称：近
旅連）教育旅行部会の京都
地区会が、修学旅行で京都
に宿泊する生徒達が使う
「割りばしリサイクル」に
取り組んだ。
京都に宿泊する修学旅
生は、年間役一千万人と言
われており、その生徒達が
使う割りばしの数は膨大な
ものになっている。
京都地区会では、修学旅
行で会員旅館に宿泊する各
学校に対して、従来は使
捨てであった割りばしをリ
サイクルで、資源の有効活
用と環境保護のボランティ
ア運動に参加することを呼び
かけている。

復路の新幹線の中ではどの車両を見ても寝ているグループではなく、トランプ、オセロを楽しんだり、談笑するなどの光景がみられた。20年半に亘ってどれだけ価値があり、楽しかったかを容易にうかがい知る事が出来た。同時に学校が目的とした3つの狙いは充分に成果をあげ、すばらしい修学旅行であったと思う。

修学旅行の目的は現地に足を踏みいれる事から始めるのではなく、意識から入る修学旅行計画と企画がより生徒たちの結束力を高め回収・粉碎された割りばしは、木材チップと混ぜられ紙に再生されま

